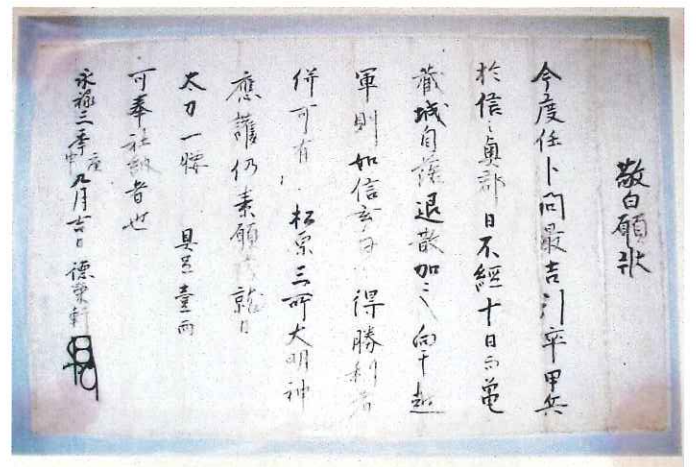
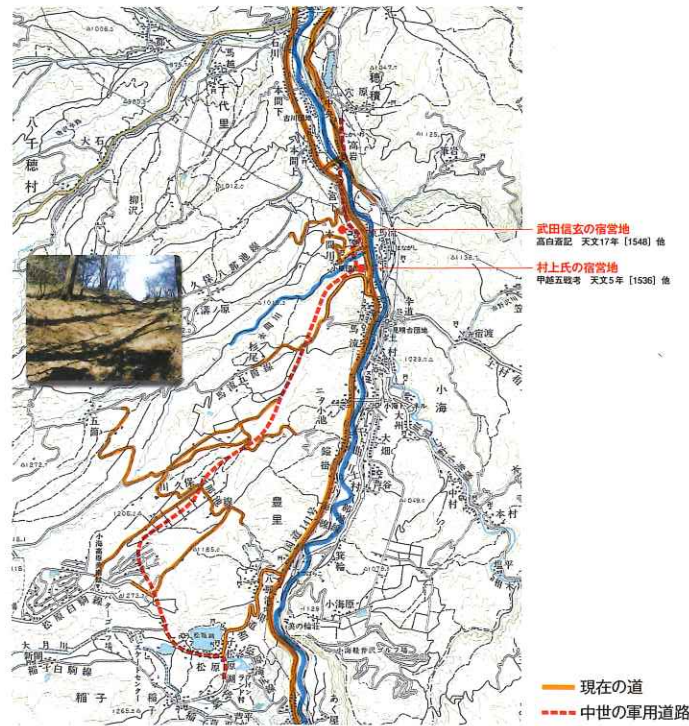
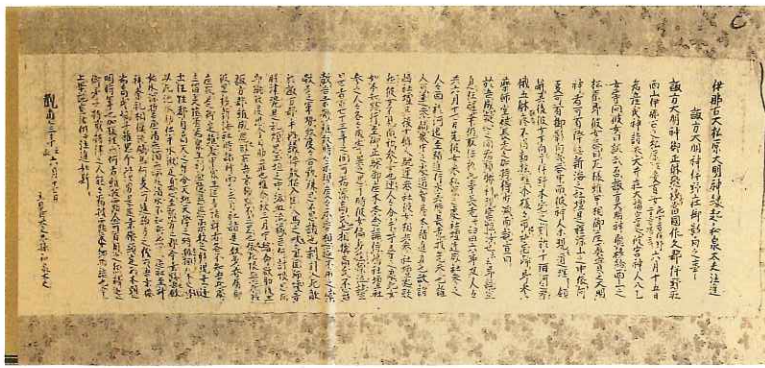


—小海町の中世—

小海町の中世は天慶2年(939)に建立されていたという松原の伊奈古明神から始まる。長元元年(1028)に平忠常の乱に連座したという藤原守圀が賞井の里に流されて来る。建久5年(1194)源頼朝の命によって、神光寺に三重の塔が建立される。

落合新善光寺に大井光長によって寄進された梵鐘は弘安2年に铸造されたもので、後年武田氏によって松原諏方明神に寄進され現在では国の重要文化財に指定されている。

観応3年(1385)松原諏方明神の和泉大夫が足利尊氏にもたらした注進状は当時の佐久の有様にも関連している重要な文書である。享徳3年(1454)現在の箕輪に箕輪朝孝が住みついている。

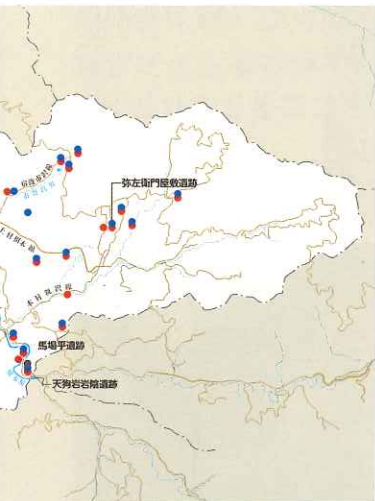


信玄文書

—秩父事件—

明治17年に埼玉県秩父地方では時の政府が富国強兵政策の為農民から重税を取りたてた事から始まった。綿密な計画での蜂起ではなかったため政府の軍隊や警察によって鎮圧されたが、蜂起隊は信州に逃れ十石峠を超えて佐久郡に入り東馬流に逃れて政府の官憲と決戦したのが東馬流地区である。

ここでは蜂起隊13名と地元の農婦1名が亡くなっているが、この事件から50年後の昭和8年に蜂起隊の菊池貫平の子孫がこの慰霊墓碑を建てている。政府ではこの蜂起隊を暴徒として扱って来たが、地元の人達は自分たちの思いを代弁していた人達という思いから此の墓の建立には精いっぱい協力しなかったという。



国民軍が宿営した本陣跡

—太陽暦と太陰暦—

明治5年11月天皇陛下の『詔書』で朕思うにといった書き出しで、「依って自今旧暦を廃し、太陽暦を用い天下永世これを導行せしめん、百官百司この旨を——、」とあり明治6年から太陽暦に代わっている。

